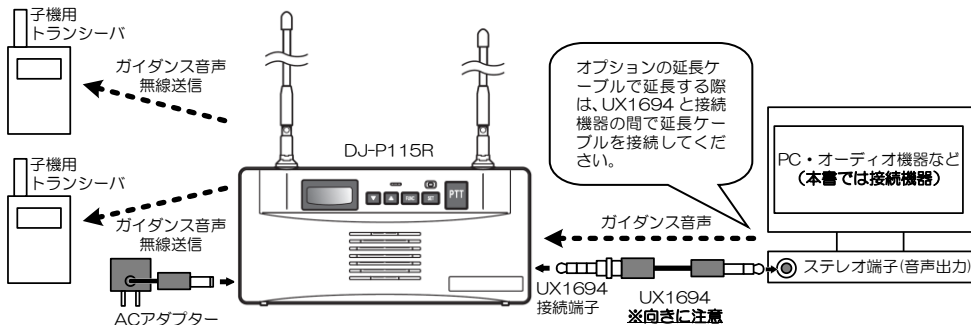


## DJ-P115R ガイダンス送信機能

付属品の接続ケーブル UX1694 を用いて PC やオーディオ機器などの音声信号出力端子と DJ-P115R を接続し、接続機器が出力した音声を自動的に送信させる機能です。

ご注意：本機能使用時、初期状態では PTT キーが使えないので通話はできません。また操作音や通信音はガイダンス音量確認時以外、本機のスピーカーでは聞こえません。必要があれば拡張セットモードで設定を変更できますので、後述の 2. をご参照ください。



- お使いの子機用トランシーバーが半復信中継通話モードの場合、本機の通話モードは半復信中継器(モード r1b)、子機が交互通話モードの場合は本機を交互通話(モード 1)、他の半復信中継器で通信する場合は半復信中継子機(モード 5A)にして、同じチャンネルとグループ番号に設定してください。設定方法は付属の「DJ-P115R 取扱説明書」の「基本操作」をご参照ください。

DJ-P115R 通話モード	子機 中継器について
r1 半復信中継器	子機が半復信中継通話
1 交互通話	子機が交互通話
5 半復信中継子機	他の中継器を使用
7 デュアルオペレーション	※ 非対応
8 最適チャンネルサーチ	※ 非対応

参考：特別な理由がない限り、本システムは**半復信中継通話**(弊社製子機のモード 3A、本機のモード r1b)での使用をお勧めします。理由は後述の「ガイダンス送信機能の注意点」をご参照ください。

- 必要に応じて、その他のセットモードを設定します。本機能使用時の PTT キーやスピーカーを有効にする場合はここで設定します。基本的な運用方法ではこの操作は必要ありません。設定を変更される際は弊社ホームページから「DJ-P115R 管理者向け詳細説明一式」をダウンロードして、ご参照ください。
- 付属の接続ケーブル UX1694 を使用し、DJ-P115R と接続機器を上図のように接続します。その際、UX1694 の長い方のプラグを DJ-P115R の UX1694 接続端子に、短い方のプラグを接続機器の音声出力のステレオ端子に接続してください。**本機に接続ケーブル UX1694 を接続していない場合は以降の設定を行うことができません。**
- 付属の AC アダプターを接続して、本体の電源を ON にしてください。
- 接続機器の音量値が適切になるように調整します。DJ-P115R が起動したら、チャンネル表示状態で「▲」キーと「▼」キーを同時に 3 秒以上押し続けます。音量確認状態になり、下図のような画面が表示されたらキーを離してください。



接続機器から送信する音声を鳴らしてください。音量によって表示とLEDが変化します。左上の表示が「000」になりLEDが緑色に点灯するように、接続機器側の音量を調整してください。音量表示の変化には時間が掛かるため、音源を何度か繰り返し再生してLEDが赤色点灯や赤色点滅にならないことをご確認ください。

6. 調整が済んだら再び「▲」キーと「▼」キーを同時に3秒以上押し続けて「ガイダンス送信状態」にしてください。チャンネル表示に戻り、「★」マークが点滅します。この表示になったらキーを離してください。これで設定完了です。



ガイダンス送信状態

この状態で 接続機器から音声が出力されると自動的に送信され、同じ音声がトランシーバーで受信できます。音声が止まると自動的に送信も止まります。この設定は電源を切っても設定内容は残り、リセット操作で初期状態にできます。ガイダンス送信機能のみを解除するときは再び「▲」キーと「▼」キーを同時に3秒以上押し続けて「★」マークを消灯させてからキーを離してください。

## ガイダンス送信機能の注意点

### PC・オーディオ機器の音声についてのご注意

ガイダンス送信と停止は音声信号の有無で判別します。送信時は0.5秒程度、ガイダンスが聞こえるまでに遅延が発生します。このため遅延時間中に流れた音声部分が子機側で受信できない「頭切れ」が起こります。これを回避するには放送を複数回繰り返す、または初めにチャイム音を入れることをお勧めします。

また、息継ぎなどの無音で送信が止まらないよう、音声が無くなっても約3秒送信状態を保持します。これは仕様で変更はできません。反対に3秒以上の無音ガイダンス音声に含まれると一旦送信を停止します。すると再開後の音声の始めが頭切れを起こすため、送信する音声が3秒以上途切れないうち配慮ください。

参考：無線通信に詳しい方はVOX機能をイメージしてください。

### 機器の配置について

PC・オーディオ機器とDJ-P115Rが極めて近い位置（本機と接続機器と密接・密着状態や、上に乗せるなど）に設置すると、互いの送信電波、放射ノイズの影響を受け、送信音声の音質劣化や通信距離の低下の原因になります。接続ケーブルUX1694ケーブルを可能な限り延ばして機器間を離してください。

### 本システムは半復信中継器での運用を推奨します。

本システムを交互通話（モード1）、または半復信中継子機（モード5A）で使用すると、子機が通話中にガイダンス音声送信されるとキャリアセンス（妨害送信禁止）が動作して、ガイダンス音声の送信ができない、送信があったこと自体が分からない、途中からの送信で全体の内容が分からない、などの不便が起きることがあります。

DJ-P115Rを半復信中継器（モードr1b）、子機も半復信中継子機モードを同じグループで使うと、誰かが通話中でもその中継音声とガイダンス音声とがミックスされて聞こえるため、内容は分かりにくくても、少なくともガイダンスのお知らせがあったことは分かります。ただし、同じチャンネルで違うグループが通話中の場合はキャリアセンスが動作します。

### 他の機能との併用について

本システムはデュアルオペレーション（モード7）、または最適チャンネルサーチ（モード8）の通話モードの時は使用できません。また、VOX、緊急通報、チャンネルスキャンいずれかの機能と併用して使用できません。